

紅茶花伝で平均水そう（ボトル）

和歌山 小田富生

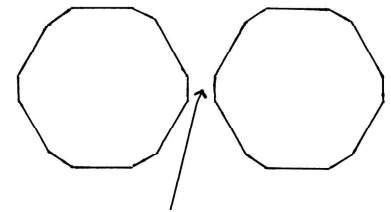
セリアでウォーターボトルの透明無地のものを見つけ、これはいいものを見つけたと思いさっそく買ってきたのは良かったのですが、300 m L のシャンプーボトルと高さは変わらず太くなっただけで平均水そうの材料としては期待外れでした。

それから数日たったある日、飲み物を買いにコンビニに寄りました。久しぶりにアイ스티ーにしようと思って棚を探していると、少しスリムなペットボトル容器のアイ스티ー「紅茶花伝」が目にとまりました。手に取ってみた感じ、容器に凸凹の地模様が無さそうで「これはいいかも！」と思ってさっそく買い、少し飲んでから容器のラベルシールをはがしてみました。すると地模様がほとんど気にならないくらいの容器だったので、すぐに3本買い足しました。ネットで調べてみると、この商品はコカ・コーラ社の製品で、「紅茶花伝 クラフティー 贅沢しぼりピーチティー（410 m L）」というものでした。



紅茶花伝の空容器で平均水そうが完成したのでその作り方を報告します。透明ボトルを使った平均水そうの作り方は、すでに紹介しているものと変わりありませんので、紅茶花伝を使った際の注意点を書いておきます。

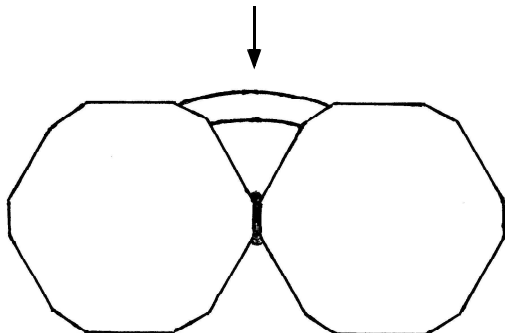
まず、容器ですが円筒形ではありません。図のように、正六角形の6個の角を少し削ったような、変形12角形です。そこで、正面からの見え方やチューブの長さを考えて、容器の連結は短い辺の方にしました。



ここにコーキング



チューブの接続は、こんな感じです。



※目盛りの打ち方ですが、250 m L 毎で印を付けていくと上ようになります。

※ペットボトルが薄いので、水を入れた状態で持ち上げると少し変形するので注意が必要です。後ろに補強の板を添えた方がいいかもしれません。

お試しください。
(もうすぐ稲刈りです)